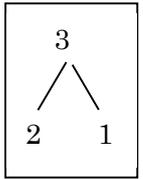
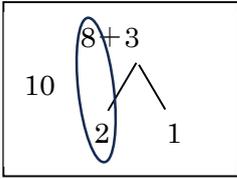
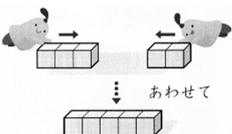
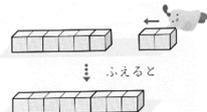
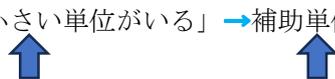


☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがなと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学年	単元	単元のめあてと授業のポイント
1年	上巻② いくつと いくつ 同様単元 K5月③ T4月①	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2 から 10 までのかずが いくつといくつに わかれるか かんがえて, はなそう。</div> <p>※「2～4」の数も学習したことを想起した後に, 単元のめあて(上に記載)が つかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 玉やブロックの操作だけに終わらず, 【図1】のように数字も書けるようにする。 「5～10」までの数だけでなく, 「2～4」までの数についても, 多面的な見方ができるようにしておく。 <p>これは, 【図2】のような繰り上がりのあるたし算や 繰り下がりのあるひき算で役立つ。 《HP 算数教育 情報コーナー参照》 【忍び寄る計算力低下への処方箋, 0の導入について】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【図1】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【図2】</p> </div> </div>
	上巻③ なんばん めかな 同様単元 K5月② T5月②	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">なんばんめと なんにん(なんこ)の ちがいを かんがえて, はなそう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> p. 32～33 では, 数学的活動を通して 順序数と集合数の違いが理解できるようにする。「～め」がつくと, その人(物)だけを表す。 p. 34～35 では, 実際に児童が 1 列に並んだり 具体物や反具体物を並べたりする活動をするので, 物の方向や位置が 実感的に捉えられるようにする。
	上巻④ あわせて いくつ ふえると いくつ 同様単元 K6月⑥ T5月③	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あわせたり ふえたりすると いくつになるか, もとめかたを かんがえて, はなそう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> p. 37～38 や p. 43～44 では, あわせる(合併)ふえる(増加する)という動きをブロックで実際に行うことによって, その意味が 実感的に捉えられるようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>あわせる(合併)</p>  <p>あわせて</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ふえる(増加)</p>  <p>ふえると</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">どちらも数の合体</p> <ul style="list-style-type: none"> 「たし算のお話⇔ブロックの操作に結び付ける⇔式に表す」の3点セットが大切である。 上巻②「いくつといくつ」の学習を生かし, 補数を用いて いくつになるかを話す。
2年	上巻④	<ul style="list-style-type: none"> 4月号参照

	上巻⑤ ひき算の ひっ算 同様単元 K5月⑤ T5月③	◎単元のめあて(板書例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 2 けたの^{かず}数からひく ひっ算のしかたを^{かんが}考えて、^{めい}せつ明しよう。 </div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"> • p. 53 では、同じ位ごとに引くという考えから、たし算と同様に 筆算に導く。 • p. 56 のひき算の筆算では、補助計算の数字を上記入すると間違いが少なくなる。 「15-7」等が理解できていない場合は、1年「ひき算」(11月号参照)の学習に戻って 理解できるようにする。 • p. 59~60 では、答えの確かめをする場面で、答えに引く数を足すと引かれる数になることが、十分に経験できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $\begin{array}{r} 3 \overset{10}{\cancel{4}5} \quad 15 - 7 = 8 \\ - 27 \\ \hline 18 \end{array}$ </div>
	上巻⑥ 長さ(1) 同様単元 K5月④ T5月④	◎単元のめあて(板書例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $も$の^{なが}長さの $くら$べ^{かた}方・$あら$わ^{かた}し^{けいさん}方・$けいさん$のしかたを^{かんが}考えて、^{めい}せつ明しよう。 </div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"> • p. 64 を効果的に扱って、普遍単位の必要性が実感できる場面を工夫したい。長さの普遍単位は、長さを いつでも誰とでも比べ合ったり伝え合ったりする場合に必要なってくる。 • p. 66~68 では、大きさの異なる任意単位を基にすると 長さが比べられないことから、単位をそろえる必要性に気付くようにする。そのことが普遍単位につながっていく。そして、普遍単位で比べることを「はかる」ということを知らせる。普遍単位は、重さ・かさ・広さの学習にも必要なので、大切である。 • p. 68 では、はがきの横が 10 cm などの量感が、もてるようにしておく。(実生活との関連) • p. 70 で 棒の長さなどを概則ではなく正しく測る場合では、 「もっと小さい単位がある」→補助単位 1mm の導入 <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;"> <u>児童に考えてほしいこと</u> <u>知らせること</u> </p> <ul style="list-style-type: none"> • p. 74 で $7\text{cm}5\text{mm}+4\text{cm}=7\text{cm}9\text{mm}$ のような間違いを少なくするために $\begin{array}{r} 7\text{cm}5\text{mm} \\ +4\text{cm} \\ \hline 11\text{cm}5\text{mm} \end{array}$ 例えば、このような補助計算の方法もある。 (縦に単位をそろえる。)
3年	上巻③	・4月号参照
	○ 倍の計算 同様単元 K10月⑫ T2月 倍の計算	◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"> • ×整数のときには、倍を何個分と理解したり、$3 \times \square = 15$ の \square を求める計算として、かけ算の逆算としてのわり算で $15 \div 3 = 5$ のように \square の値を求めたりできるようにする。
	上巻④ たし算と ひき算	◎単元のめあて(板書例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 3 けたの数や 4 けたの数の たし算ひき算の^{ひっ}筆算のしかたを^{かんが}考えて、^{めい}せつ明しよう。 </div>

同様単元
K5月③
T5月④

◎授業のポイント

- 筆算の計算に入る前に、2年「1000までの数」で身に付けた「あるものを単位として、その個数を足したり引いたりする。」という考えを想起して、100を単位にすれば1年の加減で簡単に計算できる（算数のアイディア）ことに気付くようにする。この考えは、小数のたし算ひき算の学習でも役立つ。
- p. 59～61の繰り上がりのある計算は、下記のように補助計算の数字を記入すると誤りが少ない。

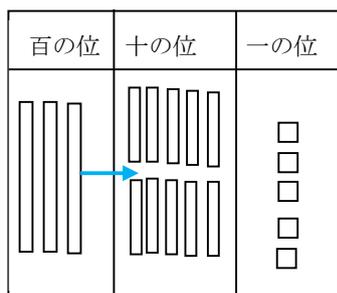
$$\begin{array}{r} 1 \\ 248 \\ + 187 \\ \hline 5 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 11 \\ 248 \\ + 187 \\ \hline 35 \end{array}$$

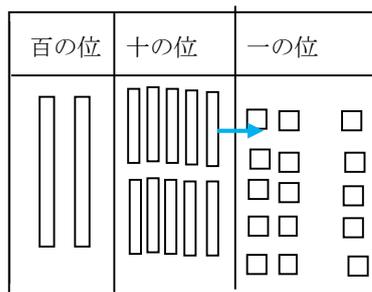
$$\begin{array}{r} 11 \\ 248 \\ + 187 \\ \hline 435 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 10 \qquad 9 \\ \cancel{0} 5 \qquad \cancel{2} \cancel{0} 10 \\ - 178 \quad - 178 \\ \hline \end{array}$$

- p. 67で、十の位が0になっている3桁の数から繰り下げる計算は、2年の「102-75」のような計算と同様に難しいので、補助計算だけでなくブロック(教具)の操作ともつなげて理解できるようにする。



百の位の3本のブロックのうち1本を十の位のブロック10本に置き換える。



十の位の10本のブロックのうち1本を一の位のブロック10個に置き換える。

- p. 68では、4桁の加減の計算も今までの加減の計算を基にして計算できるようにする。

4年

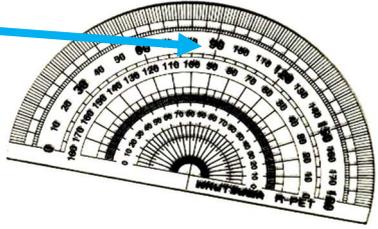
上巻④
角
同様単元
K5月④
T6月④

◎単元のめあて(板書例)

直線が回ってできる大きさのくらべ方・表し方・計算のしかたを考えて、説明しよう。

◎授業のポイント

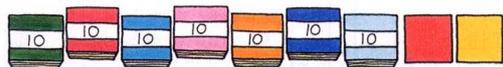
- p. 46～47では、「角は回転の大きさを表す量だ」という実感がもてるように、数学的活動を工夫する。
- p. 48～50では、「長さ・かさ・重さでの直接比較→間接比較→任意単位→普遍単位」の経験が、角の大きさの学習でも生きるようにする。そして、普遍単位で比べることを「はかる」といい、「～度(°)」と表すことを知らせる。

	<ul style="list-style-type: none"> • p. 50 では、$0^\circ \dots 70^\circ 80^\circ 90^\circ 80^\circ$ のようにめもりの上下を読む間違いが見られる。 →一方の辺を 0° にあわせて $0, 10, 20 \dots$ と読んでいくと間違いが少ない。 • このような上下2段のまま読める分度器だと間違いが少ない。 (90° のめもりが上にも下にも書いてある。) • p. 51 では、分度器の一番下を測ろうとする線にそるえるといふ間違いが起こることもある。常に「0」の位置を確認してから、測定に入るようにする。 • p. 53 [3] の 180° 以上の角は、「$270^\circ = 180^\circ + 90^\circ$, $270^\circ = 360^\circ - 90^\circ$ 」のように 角の大きさが直角の何個分であると捉えるなど多面的に考えて、かけるようにする。 • p. 58 の三角定規の内角の大きさは、意外と定着できていない。三角定規の角の大きさを記入してから、角の和や差の問題を解いて、説明する力を伸ばすようにする。 • p. 58 [1] では、スロープや滑り台などで、角度を測る数学的活動を工夫する。  
<p>上巻⑤ (2けた) ÷ (1けた)の 計算 同様単元 K5月③ T5月③</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $(2 \text{ けたの数}) \div (1 \text{ けたの数})$ の 計算のしかたを 考えて、説明しよう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • まず、3年の「かけ算の筆算」の導入と同様に「$(2 \text{ けたの数}) \div (1 \text{ けたの数})$ の計算のしかたを考えよう」という課題で、「$36 \div 3$」のような多様な解き方が出る問題の計算のしかたを考え説明し 理解し合う。次に、課題を振り返り、「$69 \div 3$」のような問題で、「十の位の数から割っていく方法が簡単で一般性がある」ことが理解できるようにする展開も考えられる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> $36 \left\{ \begin{array}{l} 12 \div 3 = 4 \\ 12 \div 3 = 4 \\ 12 \div 3 = 4 \end{array} \right. \rightarrow 12$ </div> <div style="text-align: center;"> $36 \begin{array}{l} \swarrow \\ 30 \end{array} \begin{array}{l} 6 \div 3 = 2 \\ \div 3 = 10 \end{array}$ </div> </div> <p>【HP教育情報コーナー「単元のめあて・めあてのつかみ方・板書」参照】</p>
<p>上巻⑥ 1けたで わる わり算 同様単元 K5月③ T5月③</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $(2 \text{ けたの数}) \div (1 \text{ けたの数})$ や $(3 \text{ けたの数}) \div (1 \text{ けたの数})$ の 筆算のしかたを 考えて、説明しよう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 束の大きさを変えれば九九を使って計算できる という考えが、筆算の基になっている。

<72÷3 のとき>

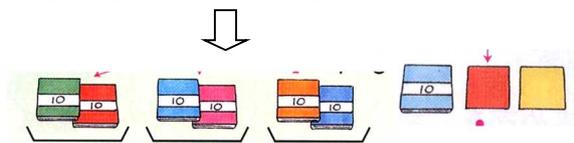
・ p. 68～70 では、図の考え方と筆算の形式を関連付けて指導する。

①10枚のたば7個を3人で分ける。



7÷3で2をたてる

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)72} \end{array}$$



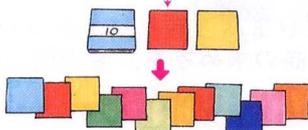
$$7 \div 3 = 2 \text{ 残り } 1$$

<1人2束ずつで1束あまる>

3に2をかけて6
7から6をひいて1

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)72} \\ \underline{6} \\ 1 \end{array}$$

②あまりの10の束1束とばら2枚をあわせる。

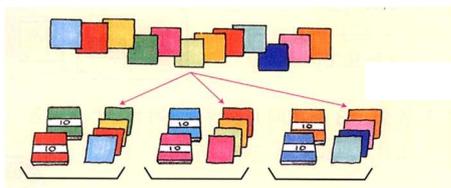


2をおろす

$$\begin{array}{r} 24 \\ 3 \overline{)72} \\ \underline{6} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$$

③12枚を3人で分ける。

$$12 \div 3 = 4$$



12÷3で4をたてる
3に4をかけて12
12から12をひいて0

$$\begin{array}{r} 24 \\ 3 \overline{)72} \\ \underline{6} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$$

④1人分は2束と4枚を合わせて24枚。

・ p. 73～75 では、(3位数)÷(1位数)の計算も、上の(2位数)÷(1位数)の計算の「位ごとに割る」という考えを基にしてできるようにする。

5年

上巻④
平均

同様単元
K11月⑪
T11月⑪

◎単元のめあて(板書例)

大きさがちがう数量がいくつかあるとき、それらをならした大きさの求め方や使い方を考えて、説明しよう。

◎授業のポイント

・平均を求める必要感をもて、実際の操作ができる数学的活動を工夫する。

(板書例)「学校前の道路は○時～○時に だいたい何台の車がとおる。」というパンフレットを作って、安全を呼びかけよう。

<p>上巻⑤ 倍数と約数</p> <p>K9月⑧ T9月⑧</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>整数を分けたり 整数をかけたり わったりするときの きまりを考えて、説明しよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 56～58 では、数を 2 つの仲間に分ける数学的活動を工夫する中で、偶数奇数に気付くようにする。 ・ p. 59 では、偶数と奇数の和と差を考えることで、数についての関心が高まるようにする。 ・ 倍数と約数の学習が楽しくなる数学的活動を工夫する。 (例) 2 拍子と 3 拍子のリズム打ちをします。同時に音が出るのは、いつでしょうか。 <p style="text-align: center;"> ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ </p> <p>2 拍子 ・ ↓ ・ ↓ ・ ↓ ・ ↓ ・ ↓ ・ ↓ ・ ↓ ・</p> <p>3 拍子 ・ ・ ↓ ・ ・ ↓ ・ ・ ↓ ・ ・ ↓ ・ ・ ↓ ・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.64～65 では、最小公倍数を素早く見つけられるようにしておく。通分で役立つ。
<p>6年</p> <p>上巻②</p> <p>③ 分数と整数のかけ算とわり算</p> <p>同様単元 K5月③ T5月③</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(分数)×(整数)や(分数)÷(整数)の 計算のしかたを考えて、説明しよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.45～46 の(分数×整数)では、単位分数の個数を計算する。 (例) $\frac{3}{5} \times 4 = \frac{1}{5} \times (3 \times 4) = \frac{12}{5}$ <ul style="list-style-type: none"> ・ p.50～51 の(分数÷整数)では、まず、単位分数の個数が整数で割れる場合を扱う。 (例) $\frac{4}{5} \div 2 = \frac{1}{5} \times (4 \div 2) = \frac{2}{5}$ <ul style="list-style-type: none"> ・ p.52 では、単位分数の個数が、整数で割り切れない場合を扱い、等しい分数の考えを活用して、割れる範囲を広げる。 (例) $\frac{4}{5} \div 3 = \frac{4 \times 3}{5 \times 3} \div 3 = \frac{4}{5 \times 3} = \frac{4}{15}$ <p>【HP算数教育 情報コーナー 「主体的に考える子どもを育てるための小数・分数のかけ算わり算の指導・支援の方法」 参照】</p>

<お知らせとお願い>

「算数教育ネットワーク岡山」で HP を検索して、毎月の「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等をご覧いただき、日々の実践に役立ててください。
 なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。(_atmark_ を @ に直して下さい。)